日刊 動労千葉
81.9.9
No.841
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

6名への休・停職攻撃を怒りをこめて弾劾する！

不当処分にたいする抗議声明

本日、国鉄当局はわが国鉄千葉動力車労働組合のもっとも戦闘的かつ献身的活動家である津田沼支部片岡一博支部長・吉岡一青年部長・篠塚康則君にたいし休職、重見敏夫書記長・深見四郎乗務員会長・小倉邦夫執行委員に停職一ケ月の不当処分を通告してきた。

この不当処分通告は、国鉄当局が、政府・自民党の軍事大国化政策の重要な一環としてある三十五万人体制合理化遂行のために、国鉄労働運動の戦闘性を解体することが不可欠の要件であるとして推進しつつある八十年代型労務管理政策―第二マル生攻撃の新たな展開であり、「本部」革マル反動分子の労働組合にあるまじき「六・一二津田沼事件」デッチ上げ・告訴を利用した極めて反動的かつ理不尽な労働組合潰しである。

同時に、八一年三月ジェット決戦闘争貫徹をはじめとして、国鉄労働運動の戦闘性を前衛的に体現する動労千葉にたいする密集せる反動総体からの階級的憎悪を体現するものである。

この不当処分攻撃は、動労「本部」革マル反動分子の処分要請と、検察権力の「勾留請求」「起訴状」のみを根拠にしたものであり、「現認報告」なきこの不当処分は、かの「秋山差別労政」路線をさらに悪質化した国鉄当局の動労千葉敵視政策以外のなにものでもない。そもそも「六・一二津田沼事件」は存在しなかったものであり、この「現認報告」なき不当処分は、逆に「事件」がデッチ上げであることを何よりも鮮明に示している。

こんにち、軍事大国化・改憲攻撃の強まりの中で、全ての労働者―労働組合は、その階級的責務を問われており、われわれは、反合・三里塚ジェット闘争を基軸に、あらゆる反動攻撃と対決する労働運動を組織の総力をあげて闘い抜いてきた。

動労千葉結成以来六名の不当解雇に続く今回の処分攻撃は、われわれが真に労働者人民の階級的立場を貫き、権力・国鉄当局と「本部」革マル反動分子一体となった組織破壊攻撃をはねのけて闘い抜いているが故の報復処分である。

われわれは組織の総力をあげ、あらゆる英知を結集し、この不当処分攻撃に徹底抗議し撤回を求める闘いに本日より決起する。

このことによって生ずる一切の事態の責任は、あげて政府・国鉄当局にあることを明らかにする。

右、声明する。

一九八一年　九月　八日

国鉄千葉動力車労働組合

ただちに、怒りの抗議・減産闘争に全支部突入せよ！

9/9始業（始発）時より24時まで減産〔乗務員A行動・地上勤務者B行動〕

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！